

全国民間保育園経営研究懇話会

経営懇ニュース9月号 (No.178)

2018年9月30日

162-0837 東京都新宿区納戸町 26-3 保育プラザ 3F Tel03-6265-3174 Fax03-6265-3184 gsp10404@nifty.com

会員のみなさん、お元気ですか。

大阪での地震、西日本の豪雨、そして北海道での地震と災害続きの2018年。災害はいつどこで起こってもおかしくないのだ、と改めて感じるこの頃です。子どもや保護者、職員たちの安全を守っていくためにも、人員増や保育環境の整備は待ったなしの課題ですね。国会請願署名のとりくみにも力をいれていきましょう。

災害に備えて

宮城・社会福祉法人なかよし会理事 大橋巳津子

大阪府北部地震、西日本豪雨、そして北海道胆振東部地震で被災された皆様に心からのお見舞いを申し上げます。

次々と大きな災害が起こり、東日本大震災を経験した私は、どの災害も自分の身に起こったと同じように感じてしまいます。その時の驚きと恐怖感、その後続く生活の困難さもわかるので、さまざま感情が湧き出てしまい、テレビの画面から離れることができません。ほんの一瞬のできごとで生活が一変してしまうなんてことは、自分たちで終わりにしてほしいと思っていたのに、私たちと同様に大変な思いをする人が増えていて残念でなりません。

災害は、時と場所を選びません。とにかく「備える」ことです。

ホールからコンテナ船が見える釜保育所(宮城県石巻市)では、津波想定避難訓練は大事です。避難場所は保育所の後にある復興住宅の4階です。団地会の皆さんの許可をもらい、年1回訓練を行います。そのあらましをご紹介します。

まず、私が地震発生をメガホンで知らせます。各保育室で安全な場所に避難し、その後の指示で所庭に避難します。0歳児さん6人は担任、フリー、事務、給食、用務におんぶされます。あまりお付き合いのない人たちにおんぶされた子は抵

抗して泣きます(ごめん、我慢してね)。人数確認の後、復興住宅まで歩きます。復興住宅の非常階段を4階まで上ります。4階の避難場所に入室し、人数確認をします。今回は10分で避難できました。素晴らしいことです!一息ついてから、保育所に戻ります。

終了まで30分でした。大津波でも10分なら命は守れると思います。みんなよく頑張りました。大人も子どもも緊張しているので、本当に疲れしました。

いつでも思うのは、人手不足です。最低基準上の人員がいても、0歳さんをおんぶする人を確保するだけで精一杯です。1歳児9人は避難散歩車2台で移動しますが、階段は自力で上ります。2歳児以上は歩きです。もちろん階段は自力で上ります。1歳児、2歳児に靴を履かせてくれる人がいると助かるし、2歳児の歩きに、急ぎ足を要求するので間に一人いてくれると助かります。上記の先生たちが持ち場を離れて応援に回るなんて、できることではありません。これはそれぞれの保育所で工夫し解決すべき問題なのでしょうか。

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた地域なので、備えたいのですが、万全とはいえない状況に困っています。

保育をめぐる情勢

●4年ぶりに減少!? 4月時点の待機児童数発表／厚労省

厚生労働省は2018年9月7日に、今年4月1日時点の待機児童数等の状況を示した「保育所等関連状況取りまとめ」を公表しました（資料・解説は月刊『保育情報』10月号参照）。

今回示された資料では、保育所等を利用する児童数は261万人で、前年比で6万8千人増加したとされています（2015年度から新制度になった関係で、保育所等という言葉には、保育所だけでなく幼保連携型認定こども園、小規模事業などが含まれています。また、その利用児童数も、それらの施設・事業の利用児童のうち、2号・3号認定の子ども数とされています）。

◆待機児童数減、しかし新旧定義が混在

待機児童数は19,895人、前年比で6,186人減少しています。ただし、待機児童数の定義を厚労省が2017年に変更した関係で、前年の待機児童数は、旧定義でカウントした自治体と新定義を使用した自治体が混在していました。よって、この資料で示されている数値を経年比較する場合には、こうした定義の変化があることを踏まえることが必要です。

◆4年ぶりに減少!?

4月1日現在の待機児童数は、ここ2年連続で増加していましたが、今回4年ぶりに減少しました。また、2008年以来10年ぶりに2万人を割ったこととなります。

しかし、いわゆる「隠れ待機児童」は依然として約7万人おり、待機児童数と合わせれば約9万人の子どもの利用申請が、希望に沿えない状態になっている実態があります。

●処遇改善等加算Ⅱの認定状況公表／内閣府

内閣府子ども・子育て本部は、2017（平成29）年度から導入された「処遇改善等加算Ⅱ」の実施状況の速報値を公表しました（月刊『保育情報』9月号参照。下図は一部抜粋）。

保育所等が提出した計画に基づき、各自治体が加算認定した状況を調査したもので、導入された年でも保育所で約8割の施設が加算認定を受けていることがわかります。小規模保育事業所で6割、新制度の幼稚園で5割強です。

各地で加算要件等となるキャリアアップ研修が進められています。しかし、保育時間が長く、開所日が多く、小規模な施設ほど、1分野15時間もの研修に、中堅的な職員を派遣することは困難です。

処遇改善等加算Ⅱの仕組みは、そうした状況に対する支援策も含め、見直しが必要です。各園での配分や活用の現状をもとに、保育士給与全体の底上げも含めて、改善を求める声を届けていく必要があります。

2. 各施設における認定状況

(1) 保育所・幼稚園・認定こども園

○認定状況

	保育所	幼稚園（新制度）	認定こども園
民間施設数	14,543か所	869か所	4,245か所
うち加算施設数	11,650か所	458か所	3,485か所
適用割合	80.1%	52.7%	82.1%

(2) 地域型保育事業

○認定状況

	家庭的保育	小規模保育	事業所内保育	居宅訪問型保育
民間事業所数	913か所	3,637か所	470か所	10か所
うち加算適用事業所数	331か所	2,197か所	179か所	2か所
適用割合	36.3%	60.4%	38.1%	20.0%

保育の旅 中国・南京その3

日本の乳児保育を紹介

石川 幸枝（広島／経営懇会長）

4月27日午後1時半から5時までの講義でした。

講義室は、元南京大学校舎の9階フロアにありました（9階フロアは、私たちを招聘した『南京経略教育科技有限公司』が所有）。



ここで少し解説すると中国の場合、公立以外は会社の経営で、公立には国からの補助金が出ますが、それ以外は全く補助金が出ないのだそうです。幼稚園・保育園も同じしくみですから、公立以外は保護者の利用料で運営されます。

この会社（南京経略教育科技有限公司）は、幼稚園・保育園の設計や建設、遊具や玩具に至るまで手掛け、その経営もしているとのこと。社長さんは、昨年、我が法人の高陽なかよし保育園を見学された方で40代の男性です。日本の保育を見学して中国でも乳児保育をしたいと強く願い、今年、自然に恵まれた広大な土地の一角に保育園を建設中でした。

講義を聞いてくださるのは、全国から参加している園長さんや南京師範大学の教授たち・学生たち（大学院生）と会社の関係者。総勢100人余りの方々と、教室はいっぱいでした。

私が中国のみなさんに話したかった内容は、前にも述べたように「人格形成の基礎を育む乳幼児期、中でも乳児保育の大切さ」です。

中国は「3歳児からの保育」が主流で「乳児保育」

がないとのこと。一人っ子政策が長く続いてきた中、子どもが家庭・祖父母によって大事に育てられていることは理解できます。しかし、集団保育に対する認識が「小さな子を保育園に入れるなんて可哀そう」であるとしたら、「乳児だって友だちを求めていますよ」「家庭と一緒に、丁寧な保育で一人ひとりの子どもに豊かな発達と生活力を促してあげましょう！！」と伝えたいと思いました。

私の保育実践ともいえる写真70枚と訳しやすい短文を使って、97枚のパワーポイントで解説。みなさん熱心に聞いてくれました。訳しながら解説する劉先生の熱いこと。私が乳児保育を伝えた後は、福山ひよこ保育園の運動会のDVDを上映しました。

「日本の保育はこんなに進んでいるとはびっくりした。安全面の配慮についても聞きたい」など、南京師範学校大学院の学生さんや教授が熱心に質問してくれました。

夜は、夕食懇親会。師範大学の教授、会社の社長と会社関係の先生たちと丸いターンテーブルを囲み、食べきれない（食べきったら足りない心配されるそうです）ほどの豪華な中華料理を囲んで、通訳を交えながら互いに質問したり、教育談義は時間を忘れるほどに続きました。

中国ってほんとうにとてつもなく広い。人口は13億といわれ、どこに行っても人が多くてにぎやかで、車社会のため道路は片側5車線。この国が大変な勢いで経済発展を遂げている様子を肌で感じました。

はじめての中国訪問で、中国に対する私のイメージは変わりました。



コラム

保育施設での 重大事故防止

Vol. 3

弁護士・社会福祉士・保育士 寺町東子

Vol. 3 運動会シーズンを控えて

この夏は、猛暑や台風による土砂災害など自然の猛威に驚愕しました。被災された園の皆様にはお見舞い申し上げます。想定できるリスクには万全の対策を期しつつも、「保育園はどんなときも開園しなければならない」という要求に対しては No ということも必要だと感じました。その意味で、京都市が台風 21 号の接近に伴い、前日の段階で全市一律休園を決めたことは、英断であったと思います。

さて、暑さも和らぎ、秋の運動会シーズンを迎えました。皆様の園の運動会は、どのような獲得目標の下に行われているのでしょうか。一人ひとりの子どもの発達段階や身体能力に応じた活動の発表の場となっているのでしょうか。保育者や保護者の満足のために、子どもに過大な要求を押し付けていないでしょうか。

内閣府の特定教育・保育施設等における事故情報データベースに報告されているケースから、運動中に大腿骨骨折という重大な結果をきたしたケースをご紹介します（平成 27 年 12 月 28 日報告 No. 139）。

認可保育所の園庭で、9 時 30 分から 10 時まで、4 歳児クラス全員（35 名）に対して保育士 10 名で、鉄棒・平均台・跳び箱・ハードルの練習を実施。10 時から 10 時 30 分まで、保育室にて歌の練習。10 時 30 分から再度、クラス全員による、園庭での鉄

棒・平均台・跳び箱・ハードルを使用した運動を実施した際に、10 時 45 分頃、5 歳女児がハードルに足をかけ両手をついて転倒し、左大腿骨を骨折した、というケースです。

当該園が、事故報告書に記載した事故発生の要因分析と改善策は概ね以下の通りです。

①運動・遊びの際には、園児たちにその都度、危険箇所などについて注意事項を繰り返し伝える。②準備運動を必ず行うこと。③ゴム製のハードルの使用を禁止する。④運動器具ごとに職員の素早い介助体制を図れるよう配置位置・場所の見直しを図った。⑤さまざまな園児に対し個々の発育状況を把握するとともに、個々の能力に応じた運動介助を常に心がけ個別指導に取り組むべきであった。担任以外が応援に入る際も、園児一人一人の発育状況をクラス担任と確認し、その園児に合った介助・サポートができるようにする。

上記の当該園の要因分析と改善策の中で、最も重要なのは、園児の発育状況と能力に合った活動を行うことです。そもそも小中学生でも転倒による骨折リスクの高いハードルを 4 歳児に課すことの意味は何でしょうか。発達段階に合っていなかった可能性が否めません。転倒は一瞬ですから介助位置を見直しても再発は防げないでしょう。また、9 時 30 分から 30 分間の練習の後、30 分おいて更に練習をしており、午前中のカリキュラムがハード過ぎたのではないのでしょうか。さらに、月齢差や個人差が大きい未就学児に、全園児に同じことをやらせる意味はどこにあるのでしょうか。園児によっては劣等感を植え付けられるだけかもしれません。

秋の運動会に向けて、一人ひとりの子どもの発達段階と能力に合った活動になっているか、無理をさせ過ぎていないか、保育者や保護者の満足を目的になっていないか、見直してみてください。

地域の状況・活動

●北海道胆振東部地震

9月6日未明に北海道胆振地方で地震が発生しました。会員園から寄せられた状況をお伝えします。

○翌日の状況（札幌・光星はとぽっぽ保育園より）

停電の影響が一番でした。札幌市内、6日はすべての電源がない状況でしたので、交通機関や信号、電話、メール、パソコンが全部だめでした。休園した保育園も多くあった模様です。

園は電気施設のため、開かなくて困りました（一つ入り口を壊しました）。園舎に入ると、物は結構散乱していましたが、壊れていたのは額縁のガラスと食器数枚くらいでした。園児も職員も保護者もけが人はいないと思われます。さすがに6日は園児1名のみ。みなさん仕事に行けない状況でした。

今日も停電しているところは多いのですが、保育園はライフラインはもどったので、通常どおりです。保護者のみなさんは仕事に行く交通手段がなかったり、いっても電気がないので仕事できないなど、結構お休みのようです。学校関係はお休みです。

また、同じ東区内の園長から「保育園前の道路が陥没、どんどん広がってきて危険なので休園している」と電話がありました。交通が寸断されているので、職員も来れない等、電気ばかりでなく、水がないところもあり、いろいろな状況がありそうです。

我が園は職員も比較的近くに住んでいてみんな保育園にいた方が安心と言ってくれるので、朝早くからみんな保育園に駆けつけてくれて、保育も通常どおりできていますが、そんな園ばかりではないとあらためて感じました。札幌市に連絡したら、各園の判断に休園はまかせると言っていたそうです。停電のため、FAX・メールで連絡がきても、見られない状況でした。

○9月11日時点で把握できた状況（経営懇役員・旭川のびろ保育園より）

●苫小牧→震源地に近いこともあり、震度5強で激しい揺れがあったということです。水は出ていたが電気は2日目に復旧。ガスを設置している園は、給食の提供もパンなどあるもので対応。オール電化の園は、一口コンロなど保護者が持ってきてくれて提供出来たとのこと。延長保育は、12日まで自粛することにしたとのこと。

●札幌・北広島→会員園は大方、開園。近隣園が休園する中、登園する子は、1人という園もありましたが開園していたとのこと。また、地域によってかなり状態が違い、保育園近くの道が陥没したため、休園にして10日から再開している園もあります。

また、ニュースにもなっていましたが安平町の認定こども園では、地震の当日お泊り会を行ってありました（町にひとつしかない園）。60名いる職員の内、30名が被災し、保育が出来ない状況でしたが認定こども園に隣接している町の避難所で子どもたちが大変ということで7～8日の開園を決め、ボランティアをつのりました。その要請に応え、札幌の会員園からも園長はじめ職員が参加しています。

本日（11日）は、園庭整備などで男性保育士2名が行くことになっていると聞いています。

●旭川→地域によって違いはありますが断水、電気の不通で給食が提供できない園もありました。休園にした園もあると聞いています。会員園は3園ですが全園、当日も開園しています。ガスが使えた所は、給食の提供も行っています。当園は、電気も水道もガスも大丈夫でしたので三分の二くらいの登園がありました。携帯の充電やシャワーの提供も行い、保護者の方々に利用してもらいました。地域によって大型銭湯が営業を行っているところもありそちらを利用した家庭もあったようです。小学校が休校となった為、職員もお休みを取ったりしています。でも、大方は、出勤しており、保育にも支障はありませんでした。給食は提供していますが牛乳の納品がまだです。

●「子どもの貧困の解決へ」 学習会開催／静岡経営懇

静岡経営懇では、深刻化・潜在化している子どもの貧困の実態を知り、社会福祉法人としてできることを考えようと、中西新太郎さん（関東学院大学）を講師に招き、6月30日に学習会を開催しました。

参加者は51名。年齢層は30代から70代にわたり、中堅層も多く参加がありました。

参加者からは下記のような感想が寄せられました。

○現場でできることを考えて
たい。展望が持てた

○保護者が安心して相談できる場所になりたい



○貧困問題をみんなで学び、共有したい

○セーフティネットとしての保育園の重要性を再確認できた

○保育園の福祉機能について、考え直したい

今回は、加盟園以外にも参加を呼びかけ、静岡県東部地域の保育園・こども園に、学習会開催案内を送りました。つながりのある園には、メールで案内を送り、電話での参加呼びかけも行いました。しかし、外部参加者がまだまだ少ないのが課題です。準備や組織など、役員会で共通認識にして、組織拡大の機会にしていきたいと考えています。

夏季セミナーin 広島

9月2～3日、広島にて第21回夏季セミナーを開催し、22都道府県から203名が参加しました。



◆企画内容について

1日目はシンポジウム「どうする？保育士確保・処遇改善—各地の調査活動から課題を探る！」、2日目は沖縄からの特別報告『なんでおそらからおちてくるの』～緑ヶ丘保育園・米軍ヘリ落下物事故を受けて～』と記念講演『子どもたちは未来のおとな—誰もが暮らしやすい社会づくりを考える』（講師：武内一さん・佛敎大学）を開催しました。追って内容をご紹介します。なお、1日目は音響設備の不具合

で大変聞きづらく、ご迷惑をおかけしました。

◆参加者の感想より

<シンポジウム>

○今の配置基準がいかにか低いということ。数字で見てもはっきり。配置基準と公定価格の改善を言い続けなければならない！（愛知・50代・園長）

○残業等の実態はわかったが、残業の位置づけが難しい。高めたいと思えばキリがない仕事なので。

○今の問題意識と合致。データを正確に把握することと課題や問題を分析し、法人で具体的な手立てをとることが必要だと思った。（理事・60代）

○解決のためには現場のとりくみとともに根本にある政治改革が必要と痛感。（大阪・理事長）

○園長の処遇の悪さもとりあげてほしい。（京都・40代・園長）

<特別報告>

○神奈川でもつらい事故があった。日本中どこでも起こりうると思う。子どもに「空からは雨しかふらないんだよ」と伝えたい。（神奈川・60代・理事）

○青空の下でのびのび育つこと、沖縄では必ずしも当たり前ではないのだと涙がでてきた。知らないことがたくさん、はずかしく思う。（30代・主任）

<記念講演>

○国が本気になって国民生活のことを考え政策に反映できたら暮らしも保育もよくなる可能性があるんですね！（東京・園長）

○子どもの死亡率と経済格差の関係が大きい。経済格差は命の格差。（50代・園長）

◆オプション企画・被爆体験を聞く

終了後、平和記念資料館にて被爆者の方から当時の体験をきく会をオプションで企画しました。参加された方の感想を紹介します。

○原爆の証言者の方の話を聞いて、原爆の悲惨さを再認識しました。自分の息子も、原爆資料館に連れて行って、事実を知り、未来をどうしていくかを一緒に考えられるといいなと思いました。世界から戦争をなくす、大量破壊兵器をなくすと思いを共有できるといいなと思いました。

話の後、資料館の遺品を見ました。それを使っていた人の生活を想像すると、いたたまれなくなります。原爆が落ちて、日常が一瞬で変わってしまったこと、証言者の話を聞いたこともあり、何気ない日常がなくなってしまう恐ろしさを感じました。世界では、戦争や紛争が起こっていて、難民問題も含め、今も日常が壊されている人たちがいます。なのに日本は戦争する国づくりを進めています。事実を知っておかしいことは、おかしいと言いつけたいと思います。（愛知・こすもす保育園 堀池青志）

○広島を訪れたのは私が年長児だった頃以来、40年ぶりのことでした。

オプション企画の被爆者の方の体験を聴く為に資料館に向かう道中、平和公園内の原爆ドームや、禎子さんの像など案内して頂きました。今は美しく整備された公園は、多くの方が生活していた繁華街であったと聞きました。それが全て無くなってしまった…。

体験者の原田さんは、元原爆資料館の館長さんであったそうです。その為お話の内容は世界情勢や、資料館の展示の有り方、そして被爆体験と多岐に渡

り、知識と見識に溢れた内容でした。印象に残ったのは、生き延びて逃げる時に亡くなった方のご遺体を踏まなければならなかった、その時目にした悲惨な状態にされた人々、町。

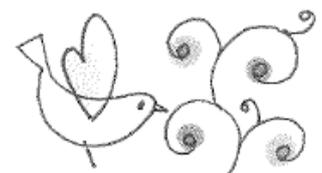
さらに、展示の有り方について。わかりやすくする為にCGによる新しい展示ができたのですが、悲惨な体験を伝えていく為には、CGよりも人間の想像力が鍵なのではなかろうか。CGで人の想像力が逆に奪われるのではなかろうかという原田さんの思いです。確かに豊かな想像力こそが、平和を創る礎なのではないでしょうか。相手の気持ちを想像すること、写真や絵からそこで何があったのか想像すること。つまり私達が保育の中で、子ども達の感性を育むことが平和な世の中に繋がっていくのでは。そのように思いました。

その日は、1人でもう一泊広島に泊まりました。夏季セミナーで聞いた沖縄緑ヶ丘保育園園長先生の、米軍ヘリコプター部品落下事故の話、被爆者原田さんの話の2つが頭の中でぐるぐる回りました。その為か、その夜不思議な夢を見ました。私の寝ているベッドに誰かが歩いてきて、私の胸の上に立ちました。立ったまま、胸の上に乗り動いてくれませんでした。しばらく立っていたその方に「どいて」と頼むとようやくどいてくれたので、室内の灯りを点けました。私が踏まれたことを、私は考えなければなりません。

日本の中で、戦争が終わっていない人がいる。場所もある。東京という町の中にいるから、私はそのことが真に理解できていないのでしょうか。それを知らしめる為に、その人は私を踏んだのではないのでしょうか。平和という観点から、園長職にある自分の職責を考えることもできて、夏季セミナーは大きな学びになりました。（東京・新田保育園 野村陽子）

*オプション企画では、地元広島のアール・フォーラムの園長・副園長のみなさんに会場までの引率・平和の碑の紹介などをさせていただきました。

ありがとうございました。



お知らせ・今後の予定

●国に対して保育条件改善を 求める声を届けよう

～国会請願署名活動にとりくもう～

2018年度の国会請願署名が完成しました。共通する要望をもとに、幅広い方々に協力を訴えていくために、請願内容は簡潔にまとめられています。各地域の保育連絡会と共に署名活動を！

- 署名用紙・チラシは、各地域の連絡会または全国保育団体連絡会を通じてお取り寄せください。
- 11月2日に集めた署名用紙を持って国会議員への要請を行います。3日は日比谷野外音楽堂（東京）で保育大集会を行い銀座をパレードします。
※集会の案内チラシを同封します。

●第15回主任セミナー

主任セミナーを11月9～10日に横浜で開催します。神奈川の会員園の主任たちが準備を始めています。各園から主任さんを派遣してください。

とき	2018年11月9～10日（金～土）
ところ	新横浜国際ホテル（新横浜駅より5分）
参加費	8000円（宿泊費・夕食交流会費は別途）

●保育研究所研究集会

11月4～5日（日～月）に東京で研究集会が開催されます。改定保育指針と処遇改善問題に焦点をあてます（詳細は同封の申込書参照）。

●経営研究セミナー（1/14～16）

来年1月に神戸で開催する経営研究セミナーの分科会での提案を募集しています。希望される法人・園は事務局までご連絡ください。

<分科会のテーマ> ※テーマは変更する場合があります

分科会①

処遇改善加算Ⅱの実態と処遇改善の課題

分科会②

理事会・評議員会のあり方と法人運営のきほん

分科会③

社会福祉法人の役割と地域の願いに応える事業

分科会④

園長の役割とは

分科会⑤

職員集団づくり・職員育成のとりくみ

分科会⑥

保育園の運営と働きやすい職場づくり

分科会⑦

保育の質と安全のとりくみ

平和への思いをこめて… 私の一句①

渡された

平和のバトン

カエルの声

（広島・平和公園にて）

～夏季セミナーに参加された方にききました～

* 同封資料～ご確認ください *

- ①夏季セミナー基調報告
- ②主任セミナー案内書・申し込み用紙・振込用紙 **締切は、10月25日です。**
- ③11. 3保育大集会ご案内
- ④11. 4～5 保育研究所第40回研究集会ご案内 **「保育の魅力・専門性の再確認」**
- ⑤保育プラザ研修・実技講座「ただじゅんのあそびっこ！」12月8日（土）